■ 臥牛サロン 開催予定：2018-2019年

※日程と演目は都合により変更される場合がありますので、ご予約時にお確かめください。

- **11月19日(月) 18:30～ 能「敦盛」の物語**
  全自由席 2,500円
- **12月26日(水) 18:30～ 能「三輪」※の物語**
  ※演目が「小鍛冶」から変わりました。
  全自由席 2,500円
- **翌1月21日(月) 18:30～ 能「田村」の物語**
  座布団自由席 2,500円 椅子指定席+500円

以降の予定は決定次第、ホームページ www.noh-ippo.jp に掲載します。

■臥牛サロンの構成

☆ 登場の謡･ご挨拶

☆ 物語の説明と謡・舞
物語の展開沿って、主な場面ごとに、情景を 説明し、謡い、舞う。

☆ サロンタイム
物語や能楽師への質問など

【田崎甫の出演予定】

・日本橋コレド室町２直結「水戯庵」
毎月出演の予定。
詳しくは→https://suigian.jp

・2019年1月19日(土) 水道橋能楽堂
五雲会 能「小鍛冶」シテ

※定員30名 予約制

☎ 0545-38-9939 (ﾀｻﾞｷ)
090-2757-0620 (ﾀｻﾞｷ)
Fax 0545-67-5588
メール hajime-noh-ippo@outlook.jp

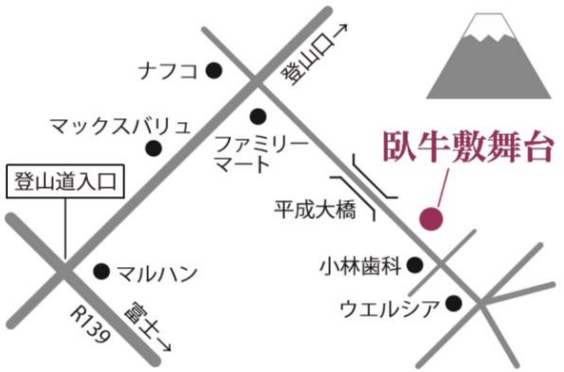
https://www.noh-ippo.jp/

・ブラウザで **noh-ippo.jp**
・検索 ”田崎甫 能への一歩”
・右のQRコードから

※参加費：
2,500円より
（構成や出演者により変わります）
高校生以下 1,000円

※お席：
・座布団自由席 12席
・椅子指定席　18席（1月から+500円）

※場所：臥牛敷舞台（富士宮市粟倉南町132)
舞台当主：高橋千洋様
※駐車場：上記☎、メールでお問合せ下さい。



能への一歩

臥牛サロン

能を楽しむ･･ 日本人を楽しむ･･

三間四方の本格的な富士宮「臥牛敷舞台」で、シテ方宝生流能楽師田崎甫と葛野りさが、一演目の物語の見どころを解説し、その謡・舞を演じます。

間近で演じられる謡・舞の迫力を、ライブハウスのように身体で感じて下さい。

2018年11月･12月, 2019年1月版
2018/10/28 制作

臥牛サロン
本格的な臥牛敷舞台で、若手シテ方二人が能の物語を解説し、謡と仕舞で登場人物の心の情景を描きます。

田崎 甫（はじめ）：シテ方宝生流職分
1988年 神奈川県生まれ、叔父の宝生流能楽師 田崎隆三に師事。2011年 東京藝術大学音楽学部邦楽科を卒業し、20代宗家宝生和英の内弟子に入る。同年「金札」で初シテ。2018年内弟子を終え職分となる。富士宮「羽衣教室」、九段「幸宝会」を主宰。

葛野りさ（かどの）：シテ方宝生流職分
平成元年生まれ、富山県富山市出身。20代宗家宝生和英に師事。平成23年東京藝術大学音楽学部邦楽科卒業。平成24年「清経」ツレにて初舞台を踏み、平成29年「田村」で初シテ。（宝生流職分）

11月19日(月) 18:30〜20:00

能「敦盛」（あつもり）

季節 秋
場所 摂津国須磨(神戸市)の浦
シテ 前シテ=草刈男　後シテ=平敦盛
ワキ 蓮生法師

物語
源氏の武将熊谷次郎直実は、出家して法名蓮生と名乗った。蓮生はかつて一ノ谷の戦いで討った平敦盛の菩提を須磨の浦で弔った際、笛の音が聞え、草刈男に出会う。男は蓮生に十念を授けて欲しいと言う。蓮生が理由を質すと、その男は敦盛の化身である事をほのめかして姿を消す。
夜、蓮生が読経していると敦盛の霊が現れて平家一門の栄枯盛衰を語り、中之舞を舞い、一ノ谷合戦の模様を再現して見せる。そして敵であった直実を討とうとするが、極楽浄土では共に同じ蓮に生まれる身になろうと言い残して敦盛の霊は姿を消す。

12月26日(水) 18:30〜20:00

能「三輪」（みわ）

季節 晩秋
場所 大和国三輪の里（奈良県桜井市)
シテ 前シテ=里の女　後シテ=三輪明神
ワキ 高僧 玄賓（げんぴん）

物語
三輪山中の僧玄賓の庵に、いつも花と水を捧げる女（前シテ）がいた。ある秋の寂しい日に、女は玄賓に夜の寒さを凌ぐ衣を頼み、自分は三輪の里に住む者で、杉の木を目印に訪ねて来てほしいと告げ、姿を消す。
玄賓は、里の男から玄賓の衣が三輪明神の神木の杉に懸かっていたと聞き、その神木のもとへ行くと、三輪明神（後シテ）が出現し、玄賓に感謝を述べる。明神は、自ら罪を背負うことで人々を仏道へ導くわが身の行いを明かし、天の岩戸の神話を語りつつ神楽を舞った。夜明けを迎えると、僧は今まで見た夢から覚め、明神は消えていた。

2019年1月21日(月) 18:30〜20:00

能「田村」（たむら）

季節 晩春
場所 京都 清水寺
シテ 前シテ=地主権現に仕える童子
後シテ=坂上田村麿の霊
ワキ 旅の僧

物語
春、旅の僧が清水寺に訪れると、不思議な少年（シテ）に出会う。少年は清水寺の由来を語り、僧たちに付近の名所を教え、満開の桜の下で僧たちとともに春の宵の風情を楽しんだ。夜になり、童子は「私の正体を知りたくば、わが行く先を見よ」と告げると、境内の田村堂へと姿を消した。じつは少年は、坂上田村麿の霊が仮の姿で現れたものであった。
夜、僧たちが経を読んでいると、田村麿の霊（後シテ）が在りし日の姿で現れ、東国の叛乱を鎮めた武勇を語り、観音の霊験を讃えた。